

隠れた名曲・佳曲を集めて 第7回

プログラム

今日は「隠れた名曲・佳曲を集めて」の特集、その第7回目をお送りします。

ケルビーニはベートーヴェンと同時代のイタリアの作曲家で、後にパリに定住し重要な地位を占めました。歌劇「メディア」はギリシャ神話を題材にした代表作で、序曲はこの悲劇を案ずるような劇的な佳曲です。ロシアの作曲家グリエールの作品は、ソプラノが歌詞のない母音のみによって歌う歌唱法、ヴォカリーズで歌い、ソプラノが、いわばひとつの楽器として扱われています。第1楽章の叙情的な美しさ、第2楽章の高度な技巧を駆使した歌唱など、魅力に満ち溢れた隠れた名曲のひとつです。イタリアの作曲家ヴォルフ＝フェラーリといえば歌劇「マドンナの宝石」間奏曲があまりにも有名ですが、それ以外の作品は殆ど知られていません。このヴァイオリン協奏曲は1943年に完成、アメリカの女流ヴァイオリニスト、ギラ・プスターボ（1919～2002）に献呈されました。渡欧してドイツを中心に活躍していたプスターボを第二次大戦の戦火から逃れたヴォルフ＝フェラーリがかくまったことからロマンスが芽生え、この作品が生まれたという逸話が残っています。甘美な旋律から湧き出るロマンティックな味わい、活気に溢れたロンド・フィナーレまで、味わい深い名曲です。1944年にプスターボのヴァイオリンで初演されましたが、今日は1972年に再演となった貴重な録音でお楽しみください。メルカダントはロッシェニやシューベルトと同時代のイタリアの作曲家。オペラや宗教曲、管弦楽曲等多くの作品を残しましたが、最も知られているのがフルート協奏曲ホ短調で、ロマン派初期を代表するフルート協奏曲です。チャイコフスキーの「フランチェスカ・ダ・リミニ」はダンテの「神曲」“地獄篇”の第5歌の同名を題材に作曲されました。父の命令で嫁がされるフランチェスカが相手の弟と恋に落ちてしまった事で、嫉妬に狂った兄に殺されてしまうという詩を、時に幻想的に、時にドラマティックに描いた名曲です。 (中川)

ルイジ・ケルビーニ (1760～1842):

歌劇“メディア”序曲

キリル・コンドラシン指揮スイス音楽祭管弦楽団
(1979.8.18 ルツェルン、クンストハウスでのLive)

レインゴルト・グリエール (1875～1956):

コロラトゥーラ・ソプラノと管弦楽のための協奏曲 op.82

幸田浩子 (ソプラノ)
アレクサンドル・ラザレフ指揮日本フィルハーモニー交響楽団
(2009.10.18 東京芸術劇場でのLive)

エルマンノ・ヴォルフ＝フェラーリ (1876～1948):

ヴァイオリン協奏曲二長調 Op.26～第1楽章、第2楽章、第3楽章から

ギラ・プスターボ (ヴァイオリン)
ルドルフ・ケンペ指揮ミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団
(1972.11.27 ミュンヘン、ヘルクレスザールでのLive)

*** 休憩 ***

ジュゼッペ・メルカダント (1795～1870):

フルート協奏曲ホ短調

ジェームズ・ゴールウェイ (フルート)
小澤征爾指揮ボストン交響楽団
(1987.7.3 タングルウッド音楽祭コンサートホールでのLive)

ピョートル・チャイコフスキー (1840～1897):

幻想曲“フランチェスカ・ダ・リミニ” Op.32

セルジュ・チェリビダッケ指揮シュトゥットガルト放送交響楽団
(1975.4.11 ベートーヴェン・ザールでのLive)